

# 九州運輸局メールマガジン

第422号 令和元年12月12日(木)

## 運輸安全だより (安全取組事例の紹介)

ドライブレコーダーの機能を活用し、事故につながりやすい急発進・急停止の回数等を自動的に記録し、事故、ヒヤリ・ハットの映像データを点呼時の教育用に活用し、乗務員の意識向上を図ります。



弊社では、タクシー全車両を対象とし、以前に導入したデジタルタコグラフに新たにドライブレコーダーを連動させたシステムを導入しました。

1. 自動的に急発進・急停止が行われた時刻や回数を記録し、点呼時に管理者がこれを把握できるシステムを構築、これを利用して、「事故の芽」となる急発進、急停止の回数を減らすことにより、事故の未然防止を図る全社的な運動を展開しています。なお、急発進・急停止の回数が多い乗務員には、個別に指導を行うこととしています。

また、急発進・急停止時の映像、時刻、場所や、ブレーキ、ウィンカーの作動データなどまで記録し、デジタコでは認識できなかったことが映像で見えるというドライブレコーダーの特長を活用し、

- ① 事故、ヒヤリ・ハットの典型的な事例については、映像を点呼時の運転士教育用として利用
- ② 事故、ヒヤリ・ハットの多発場所の把握
- ③ 事故が起きた場合の正確な状況把握 等にも用いています。

2. 運転姿勢等の基本動作は乗務員の自明であるとして特に指導していなかったことから、タクシーとハイヤーの基本動作を解説した以下のDVDを作成し、小集団活動等の乗務員教育時に活用しています。

- ① 運転姿勢 ブレーキがしっかり踏めるように、ハンドル操作がスムーズにできるように、シートの前後位置・背もたれの位置等、運転の基本姿勢の見直しを指示
- ② Pレンジとサイドブレーキ  
サイドブレーキを引かずにDレンジのままフットブレーキを踏んだ状態では、ブレーキが足らずれてしまう等により、追突した事例が多く報告されていることを説明し料金收受時及び降車時のシフトレンジはP、サイドブレーキを引くことを徹底するよう指示
- ③ 首都高速カーブでの走行

首都高速での事故は多く発生しており二度と惹起しないために以下のことを約束。

- ・スピードを出さない(雨天時は、通常の20%以上速度を落とす)
- ・カーブ手前での減速(オーバードライブOFF)、直線になったところでオーバードライブON走行
- ・漫然運転にならないよう、疲労を感じたらパーキング等で休む



3. 取組の効果

ドライブレコーダーの導入等の結果、特に実車中の急発進・急停止の件数が少なくなり、また、事故発生状況の正確な把握ができることにより、乗務員への的確な指導・教育が確実に実施できるようになりました。また、基本動作DVDを活用した教育効果として年間で追突事故が2割程度減少することができました。